

| | | | |
|----------|--|----------------------|---|
| a 学校教育目標 | 「学び つながり 挑戦する子ども」 —地域を支え 世界で活躍する姿をめざして— | b 経営理念 ミッション・ビジョン | 【ミッション】(自校の使命) 郷土に誇りをもち、自ら考え、判断し、決断して行動できる児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 自分で決めて挑戦し、共に学び合う「知・徳・体」で調和のとれた糸崎つ子を育成する。 【求められる教職員像】 自己成長に努め、協働し、自らチーム糸崎小の一員として創造的に職務を果たしていく教職員 |
|----------|--|----------------------|---|

| 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | | | 改善方針 | | 学校関係者評価 | | | |
|---------------|-------------------|---|--|--|-------|-------------------------|-------|-------|------|--|---|---------|--|---|--|
| c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 | g 目標値 | 担当 | 9月 | 2月 | i 達成度 | j 評価 | k 結果と課題の分析 | n 改善方針 | l 評価 | | | m コメント |
| | | | | | | h 達成 | h 達成 | | | | | イ | ロ | ハ | |
| 確かな学力の育成 | 「糸小版学び合い」による授業づくり | ・必然性のある問いの設定(単元 時間ごと) ・めあてとルーブリックを児童と共有 ・多様な学びを選ぶことができる環境づくり(ICT器機の活用 思考スキル 図文 絵等) ・授業タイムマネジメントの徹底 | ・NRT、全国学力学習状況調査(対県比)の結果 平均との比較 ・学期末テスト ・国語科、算数科で、知識・技能、思考・判断の合計平均が80%以上の児童の割合 ・学習アンケート 「学び(考えること)がおもしろい」「比べて聞く」「結論先行、理由をつけて説明する」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合 | ・全国学100% ・NRT100% ・国語85% ・算数85% | 教育研究部 | 92% | | 92% | B | NRTテストの国語の全体平均は50.8、算数の全体平均は51.3、理科(4~6年のみ)の全体平均は48.0であった。前年度比 国-1.3、算-1.5、理-1.2、教科総合は、50.5で前年度比-0.3だった。 全国学力状況調査の国語は平均正答率66%で広島県と比較して3%低かった。算数は平均正答率66%で広島県と比較して2%高かった。 国語学期末まとめテストの知識・技能の平均到達率は76%、思考・判断・表現の平均到達率は65%であった。算数学期末まとめテストの知識・技能の平均到達率は68%、思考・判断・表現の平均到達率は76%であった。 国語と算数どちらにおいても課題がある。 「学び(考えること)がおもしろい」に肯定的評価をしている児童の割合90%、「比べて聞く」に肯定的評価をしている児童の割合83%、「結論先行、理由をつけて説明する」に肯定的評価をしている児童の割合64%であった。特に、結論先行で理由をつけて語ることに課題がある。 | ・NRTテストについては、児童が苦手な単元に関するアシストシートや問題を朝のドリルタイムで解説を加え、再度解くことで、定着を図る。 ・全国学力状況調査・学期末テストにおいて国語・算数に共通する課題として、文章を読み解く力が弱いことが挙げられる。問題文を漠然と読んで解釈をし、問題を解いている実態がある。また、長文になると最初からあきらめてしまいう傾向も強い。読書時間を増やし文字に触れる時間を増やすこと、算数の文章問題については、分かっていないことに線を引きなど「丁寧に」、最後まで、落ち着いて」をキーワードに文章を正確に読むことに慣れさせていく。 | | | | ・学力調査の結果をふまえた改善策が的確になされていると思います。課題の共有を図り、小中子どもたちを育てていけたらと思います。 ・授業や四則計算などの基本的な学習を全校で行うことは良いと思います。 ・現代の子どもは集中力が低いように感じるので、5分間しつかり集中できるドリルタイムのより組みが良いと思います。 ・中学校1年生は数学特に、分数に課題があるため、小学校の段階から、分数の学習に力を入れてほしい。 ・読解力はすべての教科の基本となることなので、読解力の育成に力を入れてほしい。 ・キャリア学習の取組を引き続きお願いします。 |
| | | 振り返りの充実 | ・学びポートフォリオ(キャリアログ、各教科の学びの成果物)をもとに自らの学びを再構築する。 ・めあてに対して視点を明確にしたまとめと日々の学びの振り返りの徹底(R80の充実) ・三者懇談会で自己表出(学期ごとの学びの成果と課題、その克服を自分の言葉で担任と伝える。) | ・学習アンケート 学びポートフォリオ(キャリアログ・学びの成果物)で自分の学びを振り返り、自分の成長や課題がわかる児童の割合 | | 90% | 79.0% | 87% | B | 引き続き、キャリアログを活用することで、学期末に自分ができたこと、課題、次の学期に向けて頑張りたいことについて振り返らせ、次学期につなげる。 | | | | | |
| 豊かな心と健やかな体の育成 | 挑戦する子どもの育成 | ・レジリエンスを根底に据え、協働し、挑戦する中で、自分の役割を果たし、豊かな人間性と体力を培う。 | ・自分のことアンケート 「自尊感情の項目 6 13」 「自己効力感の項目 17」 「回復力の項目 22 24」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合 | ・85% ・90% | 生徒指導部 | 83.8% | | 98.6% | B | ・自尊感情・自己効力感の項目については、「みんなの役に立っている」91%、「何かするときに自信をもってできる」83%以上であった。しかし、「自分が正しいと思うことはつきり言える」は76%だった。キネスの取組を通してみんなの役に立っている気持ちや自信を高めることができていると考えられる。自分の気持ちを伝えることについては、できていないと感じていることが分かった。 ・回復力の項目については、「なほ強い人間だと思う」80.8%、つらいことがあっても気分転換できる85.7%だった。キネスやレジリエンスに関する取組、授業における回復力の育成など様々な取組により高まってきていると考えられる。 | ・学年目標の達成に関連した個人目標の設定、自己評価・他者評価の機会を設定し、達成をめざしていき、また、キネスの取組を通して、自尊感情や自己効力感を高めていく。 ・生徒指導部だけでなく、保健体育部や教育研究部などの学校の様々な活動や行事とつなげながら、回復力を高めていく。 | | | | ・ギネスの取組をいつも楽しみにしています。達成より過程が大切だと思います。学級で目標立てて、児童が意欲をもって取り組めるように、引き続きお願いします。 ・自分のことアンケートなどの取組が良いと思います。自分がどういう人間になりたいか、しっかり考えてほしい。 |
| | | 体力づくりの推進 | ・集団目標とその目標を皆で達成するための個人目標の設定 ・自己決定や相互評価の時間を確保し、意欲向上につなげる。 | ・体力づくりアンケート 体を動かすことが好きな項目関連の肯定的評価の割合 | | 90% | 91.4% | 101% | | B | ・今後も引き続きJタイムを週2回実施する。また自分で目標を立てて取り組めたり、夢中になって体を動かさせたりする体力づくりの工夫を図る。 ・体育科の授業で目標の振り返りや課題を明確にする時間を設ける。 | | | | ・自分の強みや弱みなどを把握して、挫折しても立ち上がれるように成長してほしい。 ・糸崎小の子どもは元気です。しっかりと運動をしている。欠席者が少なく、元気な子が多いので、引き続き健康な子供を育ててほしいです。 |
| | | 信頼される学校 | 組織マネジメントの確立 業務改善の推進 | ・学校経営委員会や各部会の機能化 ・業務の精選及び改善方策の検討及び実施 ・効率的な業務遂行と教職員の時間管理能力の向上 ・自己申告による定時退校日(1日)の実施 ・毎週木曜日のすいすい定時退校の実施 ・18時の確実な施錠 | | ・在学時間(外)が月35時間以下の職員数の割合 | 100% | | | 92.8% | 92.8% | B | ・退校時刻を早めることだけが目的にならないように、各分掌の効果的な業務遂行と精選を行う。 ・持ち帰り仕事が減るように、全職員でアイデアを出し合い、工夫して業務ができるようにする。 ・時間管理の方法を共有し、組織的に行動できるように業務の見える化を行う。 | | |

【自己評価 評価】
A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100 C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。